OCCH

No.31　2005. 7. 29

（財）大阪府文化財センター

Osaka Center For Cultural Heritage

シリーズ ここまでわかった考古学
「久宝寺遺跡の最新成果―河内平野における古墳出現をさぐる―」展示風景

もくじ

P．2
- 新職員の紹介―平成17年度人事異動―
- 評議員会・理事会

P．3
- 小テーマ展示（近つ飛鳥博物館）
- 第50回大阪府埋蔵文化財研究会
- 平成17年度文化財講座始まる

P．4
- 弥生学習館のミニ講座
- 歴史体験隊
- 弥生学習館との共催ツアー
- 郷土の文化財を見学する会

P．5
- 体験発掘・出前授業
- 共同研究
- 韓国 中央博物館考古部長が来訪

P．6
- 記録映画制作
- 「発掘された日本列島2005」に出展
- 百済考古学の新情報
- スポット展示
- ビデオ撮影とDVD制作

P．7
- トピックス
  ＊八尾南遺跡出土絵画土器
- 平成16年度刊行図書

P．8
- 弥生文化博物館　夏の展示ご案内
- 近つ飛鳥博物館　夏の展示ご案内
- 日本民家集落博物館　催しご案内（８月から11月）

http://www.occh.or.jp

新職員の紹介—平成17年度人事異動—

今年度も昨年度に引き続き、第二京阪道路建設に伴う発掘調査の拡充により京阪調査事務所・交野分室に調査第六係が新設された。また、南部調査事務所には調査第二係が新設され、古市分室は調査第三係となった。

退任された役員

岩田　光利（理事）　末次　攝子（理事）
小坂裕次郎（監事）　里中　長治（評議員）

退職者

中尾　玲子（総務課経理係主任主事）

府等への復職者

<大阪府へ復職>

蔭山　武夫（総務部長兼総務課長）
玉井　　功（調査部長）
渡邊　昌宏（京阪調査事務所長兼普及資料課長）
森屋　直樹（調整課調整係長）
山口　和男（調整課設計係長）
辻本　　武（中部調査事務所調査第一係長）
前田　徳治（弥生文化博物館管理係長）
山下　　篤（調整課設計係主査）
山崎　和哉（弥生文化博物館主任主事）
木谷　秀次（弥生文化博物館専門員）
地村　邦夫（弥生文化博物館学芸員）
辻本　　努（近つ飛鳥博物館主事）
上林　史郎（近つ飛鳥博物館学芸員）

<（財）大阪市文化財協会へ復職>

松本　啓子（京阪支所調査第一係主査）
小倉　徹也（京阪調査事務所調査第三係技師）

<（財）京都市埋蔵文化財研究所へ復職>

前田　義明（京阪調査事務所調査第五係主査）
加納　敬二（京阪調査事務所調査第二係技師）
山本　雅和（京阪調査事務所調査第二係技師）
南出　俊彦（京阪調査事務所調査第四係技師）
木下　保明（京阪調査事務所調査第五係技師）
長戸　満男（京阪調査事務所調査第五係技師）

新たな役員

中西　正人（監事）　福田　惇一（評議員）

新たな派遣職員

<大阪府から派遣>

浅田　　稔（総務部長兼総務課長）
田中　和弘（調査部調整課長）
山本　　彰（京阪調査事務所長兼普及資料課長）
芝野圭之助（調整課調整係長）
松元　政美（調整課設計係長）
松岡　良憲（中部調査事務所調査第一係長）
広瀬　雅信（中部調査事務所池島支所調査係長）
西野　重光（弥生文化博物館管理係長）
橋本　眞一（調整課設計係主査）
小林　義孝（京阪調査事務所調査第四係主査）
亀島　重則（南部調査事務所第一係主査）
北村　敦彦（調整課設計係技師）
世良　哲夫（弥生文化博物館主任主事）
五十嵐和雄（近つ飛鳥博物館主任主事）
仲谷　和泰（弥生文化博物館専門員）
竹原　伸次（弥生文化博物館学芸員）
宮崎　泰史（近つ飛鳥博物館学芸員）

<（財）大阪市文化財協会から派遣>

積山　　洋（南部調査事務所調査第一係主査）
大庭　重信（中部調査事務所池島支所調査係技師）
李　　陽浩（京阪調査事務所調査第三係技師）
平田　洋司（南部調査事務所調査第一係技師）

<（財）京都市埋蔵文化財研究所から派遣>

内田　好昭（京阪調査事務所調査第二係技師）
網　　伸也（京阪調査事務所調査第四係技師）
南　　孝雄（京阪調査事務所調査第五係技師）

<柏原市教育委員会から派遣>

桑野　一幸（南部調査事務所調査第三係主査）

新規採用

<職　員>

塚本　浩司（中部調査事務所池島支所調査係技師）
正岡　大実（南部調査事務所調査第三係技師）

<嘱託員>

中井　貞夫（近つ飛鳥博物館）

<専門調査員>

六辻　彩香（京阪調査事務所調査第一係・太秦遺跡他）
山根　　航（京阪調査事務所調査第二係・讃良郡条里遺跡その７）
上本　志穂（京阪調査事務所調査第二係・讃良郡条里遺跡その８）
湯川　善一（京阪調査事務所調査第四係・上私部遺跡）
丸吉　繁一（京阪調査事務所調査第六係・私部南遺跡その２）
降矢　哲男（中部調査事務所調査第二係・植松遺跡）
向井　　妙（中部調査事務所調査第二係・山賀遺跡03－1）
西川　雄大（南部調査事務所調査第一係・池内遺跡その１他）
清水　梨代（南部調査事務所調査第一係・三宅遺跡その３他）
永田　由香（南部調査事務所調査第一係・池内遺跡その２他）
野嶌美紗子（南部調査事務所調査第三係・法善寺遺跡その１）

〔2005年４月現在〕

評議員会・理事会

平成17年３月25日（金）ホテルアウィーナ大阪で平成16年度第２回評議員会・理事会が開催され、平成17年度事業計画（案）及び収支予算（案）並びに平成16年度補正予算（案）を審議し、原案どおり承認された。

また、人事案件として理事の任期満了に伴う理事の改選が行われ、理事長には水野正好氏、専務理事には鳴澤成泰氏が再選された。

なお、府立弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館並びに近つ飛鳥風土記の丘の施設管理運営に関する指定管理者としての応募すること等についても原案どおり承認された。

小テーマ展示（近つ飛鳥博物館）

前号に続き平成16年度小テーマ展示第３弾『シリーズ ここまでわかった考古学「久宝寺遺跡の最新成果―河内平野における古墳出現を探る―」の紹介。

近つ飛鳥博物館　特別展示室を会場として、平成17年３月19日（土）～４月10日（日）（休館日を除く20日間）、近つ飛鳥博物館と共催で開催した。２年半に及ぶ、JR久宝寺駅前再開発に伴う八尾市久宝寺遺跡水処理施設の発掘調査を平成15年に終了し、現在報告書作成中である。

今回の調査で古墳時代初頭の総数60基をこえる大規模な墳墓群が検出されるなど考古学上大きな注目をあびたが、その墳墓群出土遺物を中心に縄文時代から古代までの成果を紹介展示した。

また、会期中、調査成果報告会を２回、博物館地階ホールで開催、多数の参加があった。

調査成果報告会（午後１時30分～３時30分）

第１回　３月21日（月・祝）

演題　「古墳出現期の久宝寺遺跡」

講師　（財）大阪府文化財センター専門調査員　菊井　佳弥

演題　「久宝寺遺跡と加美遺跡の墳墓群について」

講師　（財）大阪市文化財協会調査課長　田中　清美氏

参加者数　137人

第２回　４月３日（日）

演題　「久宝寺遺跡の変遷―石器から鉄道まで―」

講師　（財）大阪府文化財センター技師　亀井　聡

参加者数　72人

広い近つ飛鳥博物館特別展示室内の壁面ケース、曲面の壁に沿った露出展示、中央スペースに復原された弥生時代後期の竪穴住居跡にと、展示室いっぱいにならべられた弥生時代後期～古墳時代前期の土器の展示には見ごたえがあるとの感想が多く聞かれた。また、庄内式古段階～布留式古段階の時期に築造された墳墓群は古段階・中段階・新段階と３時期に分類され、供献土器、土器棺等、土器研究者にとっては見逃せない展示であった。さらに、中央スペースに展示された墳墓群出土の組合式木棺、割竹形木棺は組み立てて展示されていて、見る人に分かりやすかった。久宝寺古墳出土の壺形埴輪を（財）八尾市文化財調査研究会にお借りし出展できたことは、庄内式土器と埴輪のはじまりとの関係を表現するうえで有意義であった。入館者総数は2,260名であった。（石神幸子）

第１回調査成果報告会　質疑応答

第50回大阪府埋蔵文化財研究会

「最近の後期、終末期古墳の調査・研究事例」のテーマで大阪歴史博物館にて開催しました。６本の研究発表のほか、奈良文化財研究所花谷浩氏に「キトラ古墳の発掘調査と壁画保存」、平成16年度で大阪府教育委員会を定年退職される中井貞夫氏に「河内平野における低地の小古墳」と題した記念講演を行なっていただきました。

今城塚古墳、シシヨツカ古墳、キトラ古墳など、新聞などでも大きく報じられた話題の発表事例ばかりでもあり、参加者は200名近く、大盛況の研究会となりました。

また、今回で当研究会も50回目という節目を迎え、資料集に過去50回の総目録も添付しました。（岡本圭司）

中井貞夫氏による記念講演

平成17年度文化財講座始まる

開講以来33年目を迎える今年度の文化財講座は、『魏志倭人伝の世界』という全体テーマで企画。考古学的にみた国々の様相と邪馬台国を解明する上で問題となる観点―大型建物、古墳の出現との関係、歴史上の位置づけ、東アジア世界の中での倭国等等―からお話いただき、魏志倭人伝の世界＝２・３世紀の社会・文化について考えていきたい。

大阪歴史博物館４階講堂（定員278名）を会場として、５月から２月までの第３日曜日午後２時～３時30分にかけて開催。従来、受講申込が大変多く、もっと大きな会場でという声が上がっており、さいわい今回、（財）大阪市文化財協会・大阪歴史博物館の共催を得ることができ開催の運びとなった。今回は、336名の申込があり、最終266名の会員で実施している。（石神）

第１回　高島忠平氏（前列左）と会場風景

弥生学習館のミニ講座

平成15年度開催以来３年目になるミニ講座《フォーラム》「匠の世界―日本の伝統技術は今―」は、泉大津市立池上曽根弥生学習館を会場として、４回シリーズで開催。池上曽根史跡公園協会と当センターとの共催である。

数多くの伝統技術の中から今年度は、「瓦」「鍛冶」「藍染め」「木彫刻」の４分野、４名の匠にご講演いただき、各部門の専門の先生との対談を行った。また、期間中４名の匠の作品を展示し更に理解を深めることができた。

各回とも100人を超える参加者があり、好評のうちに終了した。

第１回　５月29日（日）古代の屋根瓦
　山本　清一氏（本瓦葺き・国選定保存技術保持者）
　菅谷　文則氏（滋賀県立大学教授・考古学）
第２回　６月12日（日）伝統の技術・明珍火箸
　明珍　宗理氏（鍛冶・明珍家第52代当主）
　枡村紀久男氏（元兵庫県物産協会専務理事）
第３回　６月26日（日）近江の本藍染め
　森　　義男氏（紺九４代目・国文化財保存技術保持者）
　伊関　和代氏（大阪芸術大学工芸学科教授）
第４回　７月３日（日）井波彫刻の匠の流れ
　田村与八郎氏（木彫刻　番匠屋16代目）
　田村　幸子氏　　（石神）

弥生学習館との共催ツアー

平成15年度より開始しました当ツアーも今回で通算４回目になりました。毎回好評いただき、多くの方に参加いただいています。６月３日～５日の３日間「魏志倭人伝奴国・伊都国・末盧国の遺跡を訪ねて」と題し福岡県、佐賀県の史跡整備された弥生時代の遺跡を中心に見学しました。

特に２日目は、講師に前九州歴史資料館副館長柳田康雄氏を迎え、各遺跡の解説と当地の弥生時代の概要についてお話いただきました。著名な遺跡を多く訪れ、九州北部の弥生時代の変遷を知ることができました。　　（岡本）

伊都国歴史博物館にて柳田康雄氏の平原遺跡の解説

歴　史　体　験　隊

郷土の文化財を見学する会

平成17年度も新たに会員を募集し、４月17日に第１回例会を開催しました。貝塚市教育委員会上畑治司氏の案内で水間寺ほか、水間街道沿いにある史跡を見学しました。

第２回例会は５月８日に古市古墳群を藤井寺市教育委員会の上田睦氏の解説のもと、津堂城山古墳、島泉丸山古墳（伝雄略陵）など主に当古墳群の北部地域を歩きました。

第３回例会は６月12日に交野市教育委員会の上田修氏の案内で、私部城跡、北田家住宅、交野車塚古墳など交野市域北東部を中心に文化財を見学しました。　　（岡本）

交野市歴史民俗資料展示室（旧交野無尽金融株式会社）

体験発掘・出前授業

東大阪市立池島中学校の２年生３クラスが５月26日（木）の午前･午後と翌27日（金）の午前に分かれて、発掘現場の見学とミニ発掘体験をしました。学校から池島・福万寺遺跡の発掘調査現場まで、担任の先生や社会科の先生に引率され、徒歩で発掘調査現場を訪れました。

現場事務所では、古代の人に扮したスタッフに迎えられ、文化財センター制作のビデオ「農耕の技術」（15分）を見たあと、パネルや復元された農具を見ながら説明を受け、見学する遺跡のことについて学習しました。そのあと、発掘現場に移動し、土層断面の説明や出現した飛鳥時代の川の跡の説明を受けました。ミニ発掘体験として、足跡掘りをし、多くの生徒が夢中になって掘っていました。

６月３日（金）には、**東大阪市立弥刀東小学校**の体育館で、６年生100人を対象に90分の出前授業が行われ、池島支所のスタッフ10名が指導にあたりました。

会場には、復元された弥生土器や須恵器が前もって展示され、Ａ班用にブルーシート上の６ヶ所に分けられた土器片、Ｂ班用に農具の復元品と木の実や稲わら、Ｃ班用として体育館の外に火起し道具数セットが準備されました。子供たちが入場し、17分程度に短縮されたビデオ「河内平野を掘る」を、説明を受けながら体験学習に先立って見ました。その間に、池島支所のスタッフや担任の先生が古代人の服装に着替えて、ビデオの終了とともに登場しました。土器についての簡単な説明のあと、クラス毎にＡ・Ｂ・Ｃの３グループに分かれ、20分間で交代して体験学習をしました。どのクラスも熱心で、班の学習が瞬時に終わったかのようでした。Ａ班の土器接合はなかなか接合相手が見つからず難しそうで、昔の道具に親しもうというＢ班では、楽しそうに石包丁で稲穂を刈り取っていました。Ｃ班の火起こしはなかなか着火せず、最後のクラスだけが火をつけることができ大変喜んでいました。

達成感はそれぞれ違ったようですが、どのクラスも一様に楽しそうに学習していました。最後の質問コーナーで積極的にしっかりした質問をしていたのが印象的でした。

（山岡平和）

熱の入る火起こし

共　同　研　究

（財）大阪府文化財センター発足時の基本理念実現の事業として位置づけられた共同研究も2004年度は３年目を迎えることになり、各博物館の展示の企画等に併せて下記のテーマで、充実した研究協議が行われた。

日本民家集落博物館 住居に関する総合的研究（３）
府立弥生文化博物館 東海の弥生文化
府立近つ飛鳥博物館 古墳出土金工製品の日韓比較研究

外部メンバーとして、日本民家集落博物館では宮崎県椎葉村の尾前一日出氏・古民家建築家の奥山淳三氏、府立弥生文化博物館では三重県埋蔵文化財センターの穂積裕昌氏・愛知県埋蔵文化財センターの樋上昇氏・浜松市博物館の鈴木敏則氏、府立近つ飛鳥博物館では元興寺文化財研究所の塚本敏夫氏・岡山大学埋蔵文化財調査研究センターの高田貫太氏・島根県立松江北高校の大谷晃二氏の参加をえて共同研究を行った。博物館によっては５回の研究会を重ね、いずれの博物館も2005年３月に一般向けの共同研究発表会を行った。参加者も年々増加傾向にあり、博物館の企画展示と相俟って良好な成果を収めることができた。

なお、前年度の成果を集約した2003年度共同研究成果報告書は今年３月に刊行された。（山岡）

一般向け共同研究発表会

韓国 中央博物館考古部長が来訪

韓国国立中央博物館の趙　現鐘考古部長が５月27日夕刻来阪された。同日は氏の親しい友人が数名集まり、大阪市内で歓迎会を催した。また、５月29日には、春季特別展を開催中の府立弥生文化博物館と同近つ飛鳥博物館を視察の後、帰国の途につかれた。

同氏はこれまでに何度も来日され、当センターも何度か訪問されている。特に、国立光州博物館に在職中に発掘された新昌洞遺跡から豊富な木製遺物が出土したことから、当センターが保管する近畿自動車道関連遺跡出土の木製遺物に大きな関心を寄せられ、取材されたことがあった。

記録映画制作

当センターでは、以前から発掘調査の記録映画を製作している。2004年度には新たに３本が完成した。１本は３年がかりで制作した「河内平野における古墳の出現」(14分)、他の２本は文化庁の補助金をえて2004年度制作の、「弥生時代の住まい」(14分）と「河内馬飼いの里」(13分)。いずれも16ミリとビデオテープ（VHS）がある。以上の３本を含め、これまでに制作した映画は14本におよぶ。学校や博物館などに無料で貸出している（送料は利用者負担)。詳しくは当センター企画普及係(TEL06－6785－4531)まで。

「発掘された日本列島2005」に出展

毎年、全国で行われている数千件の発掘調査の中から特に注目すべき成果をいち早く国民に公開し、埋蔵文化財やその保護の重要性に対して理解を深めていただくことを目的に開催されている文化庁主催の「発掘された日本列島―新発見考古速報展―」に、この度、八尾南遺跡から出土した龍の絵画土器や竪穴建物周壁の有機質壁材（レプリカ）など計10点の資料が出展されることとなった。展示は７月12日から開催される江戸東京博物館を皮切りに、来年３月２日まで全国７か所を巡回する予定である。　（岡本茂史）

百済考古学の新情報

６月１日（水）午後、平成17年度第１回調査部研修として、大韓民国韓神大学校国史学科教授・文学博士 權 五榮氏にご講演をいただきました。内容は「渡来系文物の研究のために」という副題のもと、百済土器研究の現在、カマドの問題、大壁建物、横穴式石室墳と副葬品、導水施設と水辺祭祀の問題など、多岐にわたりました。日本考古学に精通しておられる權先生ならでは、大阪で調査をおこなう際に重要な百済考古学の最新情報を的確にお話しいただき、センター職員にとって大変有意義な研修となりました。

（信田真美世）

講演中の權　五榮氏

スポット展示

最新の発掘調査成果をいちはやくお伝えするスポット展示。2005年３月１日から３週間、３遺跡について、大阪府立弥生文化博物館においておこないました。

①山賀遺跡発掘調査速報　　2005年３月１日～６日

２月27日の現地説明会を受けて、調査状況の写真や出土した土器・石器などを展示しました。入館者数：341人

②上の山遺跡発掘調査速報　2005年３月８日～13日

３月６日の現地説明会を受けて、調査状況の写真を展示しました。入館者数：502人

③八尾南遺跡発掘調査速報　2005年３月15日～21日

調査状況の写真と、竪穴住居の壁を補強していたとみられる葦材のレプリカを展示しました。入館者数：674人

（峠　美穂）

スポット展示　展示風景

ビデオ撮影とＤＶＤ制作

昨年度、文化財記録保存事業として４本のDVDビデオを制作した。普及部では、将来のデジタル化への対応として、静止画をデジタルカメラで撮影するのはもとより、昨年度から動画についてもデジタルビデオで記録を残すこととした。

DVカメラで撮影する対象として、シンポジウム、文化財講座、講演会、現地説明会、発掘調査の様子など選定し、記録した。

講演会等の記録として、重要調査に基づくシンポジウムがあり、大阪歴史博物館で２日にわたり「難波宮」「大坂城」の各テーマについてシンポジウムを開催し、各講師講演と討論会の撮影を行った。また、弥生文化博物館で開催した「久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ」刊行記念講演会についても撮影し、編集作業を行ったのち大阪府文化財センターDVDシリーズVol.１・２として制作した。

現地の調査として、八尾南遺跡や上私部遺跡他を選び、検出された残りの良い竪穴住居などが発掘されていく様子を調査の進行に合わせて撮影した。また池上曽根遺跡や上の山遺跡などの現地説明会では、調査を担当した職員の説明や現地の様子を撮影し、現場を訪れることができなかった方たちが、ホームページ上で臨場感を味わえるように、動画配信を行った。　（山上　弘）

トピックス

<<< 八尾南遺跡出土絵画土器 >>>

古市分室では、平成14～16年度にかけて発掘調査を行った八尾南遺跡の整理作業を進めている。

今回紹介する絵画土器は、02－2工区で検出した竪穴建物7の外周を巡る土坑から見つかった資料である。同土坑からは、これ以外にも弥生時代後期前半に帰属する多数の土器が廃棄された状態で出土した。

この絵画土器は、灰黄色の色調を呈し、内面をハケ調整で仕上げた6点の破片からなり、小型の壺の体部と考えられる。上半に当たる2点には三日月状の曲線と渦状の3重線、下半の4点には「し」の字状の曲線8本と三日月状の曲線が両端に描かれている。これらは焼成前にヘラ状工具で力強く線刻されており、線の幅は約2㎜、深さ約1㎜を測る。両者は接合せず対向するため全体の構図は判然としないが、文様の特徴から龍が描かれたものと考えられ、上半が頭部と胴体、下半が鰭と脚に当たると推測される。しかし、脚と見なした「し」の字部分は、鰭を表す三日月状の曲線に比べ簡略化した表現に見えることから、別の絵になる可能性がある。奈良県坪井遺跡出土例のような、突起状の鰭の先端が開いて多足状に表現された龍を想像させる。

今回の調査では、竪穴建物3の排水溝と建物6に西接する谷状の窪地から龍を描いた絵画土器が出土しており、本資料は3例目となる。この他にも、絵画を描いたと考えられる土器片を数点確認しており、機会を得て紹介していきたい。（鵜山まり）

絵画土器片

平成16年度刊行図書

（1）史跡　池上曽根99
（2）小阪合遺跡（その2）
（3）讃良郡条里遺跡（その3）
（4）高宮遺跡―遺構編―
（5）瓜生堂遺跡Ⅰ
（6）久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅵ
（7）総持寺遺跡Ⅱ
（8）東雲遺跡隣接地
（9）岩田遺跡
（10）津田遺跡・東倉治遺跡・茄子作遺跡　他
（11）東倉治遺跡Ⅰ
（12）小路遺跡（その2）
（13）寝屋東遺跡Ⅰ
（14）池島・福万寺遺跡発掘調査概要ＸＸＸ
（15）船橋遺跡Ⅱ
（16）大尾遺跡Ⅱ
（17）太秦遺跡・太秦古墳群Ⅰ
（18）男里遺跡
（19）船橋遺跡Ⅲ
（20）寝屋東遺跡Ⅱ
（21）太秦遺跡・太秦古墳群　大尾遺跡　高宮遺跡
（22）平成16年度文化財講座資料集『日本の海外考古学調査part 2』
（23）大阪府埋蔵文化財研究会（第49回）資料
（24）大阪府埋蔵文化財研究会（第50回）資料
（25）2004年度（財）大阪府文化財センター・日本民家集落博物館共同研究発表会『住居に関する総合的研究（3）』
（26）2004年度（財）大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会『古墳出土金工製品の日韓比較研究』
（27）2004年度（財）大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究発表会『東海の弥生文化』
（28）財団法人大阪府文化財センター・日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・大阪府立近つ飛鳥博物館　2003年度共同研究成果報告書
（29）大阪文化財研究　第26号　（30）同　第27号
（31）年報　平成15年度
（32）民家集落ふるさとだより　第24号（33）同 第25号
（34）OCCH　No.28　（35）同No.29　（36）同No.30
（37）カルチュアはっとり　No.4　考古学と模型（もけい）
（38）カルチュアはっとり　No.5　山に生きる人々
（39）カルチュアはっとり　No.6　ここまでわかった考古学　古墳時代の池島・福万寺遺跡
（40）ここまでわかった考古学　瓜生堂遺跡の最新研究
（41）ここまでわかった考古学　久宝寺遺跡の最新成果
（42）久宝寺遺跡発掘調査成果
（43）シンポジウム「難波宮」,「大阪城」　「難波宮」―宮城北辺をさぐる―　発表要旨
（44）シンポジウム「難波宮」,「大坂城」　「大坂城」―秀吉の大坂城縄張りをさぐる―　発表要旨
（45）日本民家集落博物館（絵葉書）

弥生文化博物館　夏の展示ご案内

平成17年夏季企画展示
日本のピカソといわれた男

熊谷守一の世界－水墨画・書－

7月26日（火）～9月4日（日）

日本の近代美術史に大きな足跡を残した画家・熊谷守一。彼の残した水墨画と書を紹介する展示会を開催いたします。気負いもなく、さりげなく、淡々としていてここちよい。

鯤（こん）

ふつうのようでありながら、決して誰も真似のできない。「くまがいもりかず」という生き方。自宅の庭を一生の世界とした彼の目にうつる虫や鳥や花。「熊谷守一の世界」をどうぞお楽しみください。

◆企画展示講演会
8月3日（水）小灘一紀・真鍋井蛙　対談
「熊谷守一の書画」
8月28日（日）真鍋井蛙「熊谷守一の書画」

◆企画展示ワークショップ
8月7日（日）篆刻　名前を刻む～古代文字・弥生絵画～
真鍋井蛙による実技指導。定員20名。参加費500円。
事前の申込みが必要です。

◆第11回絵画コンテスト「卑弥呼の時代を描こう」
優秀作品展　7月31日（日）～9月4日（日）

詳しくは博物館までお問い合わせください。
（電話　0725－46－2162）
http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/

近つ飛鳥博物館　夏の展示ご案内

平成17年度夏季企画陳列

「須田剋太が描いた司馬遼太郎「街道をゆく」」

須田剋太が司馬遼太郎著『街道をゆく』の挿絵として描いた原画のうち、河内・大和など近畿地方の風景を題材とした作品を、大阪府立現代美術センターと共催で約90点展示します。独自の画風で表現された「街道をゆく」をお楽しみください。

竹内峠

期間：平成17年7月26日(火)
～8月28日（日）
月曜休館

開館時間：午前10時～午後5時（入館は4時30分まで）
入 館 料：大人300円　高校生･大学生･65歳以上の方200円
／中学生以下･障害者手帳をお持ちの方は無料

関連の講演会：
◆8月7日（日）　午後1時30分～3時　地階ホール
「須田剋太が描いた“街道をゆく”」
中塚 宏行（大阪府立現代美術センター）
◆8月14日（日）　午後1時30分～3時　地階ホール
「司馬遼太郎と日本の原風景」
山折 哲雄（元国際日本文化研究所）

夏休みこども向けイベント実施中
◆夏休みこども博物館探検ツアー
8月7日・28日の各日曜日　午後2時～4時
◆夏休みこども工作室
8月20日（土）･21日（日）　午後1時～4時
※くわしくは、博物館までお問い合わせください。
TEL 0721－93－8321
http://www.mediajoy.com/chikatsu/

日本民家集落博物館 催しご案内(8月～11月)

◆ 養蚕体験　＜8/2（火）～20（土）頃＞
―白川の合掌造り民家での養蚕体験―
◆ 企画展示「かおる」　＜8/2（火）～31（水）＞
―線香など香りにちなんだものを中心とする企画展―
◆ 盆の飾り　＜8/6（土）～14（日）＞
―十津川の古風な盆の供え物などを再現―
◆ アカメシ（赤飯）作り体験　＜8/20（土）10:30～13:00＞
―白川郷で行われていた、鍋で赤飯を炊く体験―
要予約・材料費300円
◆ みんか版画教室　＜8／26（金）～27（土）14:00～16:00＞
―博物館の民家を版画で表してみる体験―
要予約・材料費100円
◆ 竹細工教室　＜8/27（土）～28（日）10:00～12:00＞
―館内の竹を切り、作品作りの体験―
要予約・材料費100円
◆ 糸紡ぎ体験　＜8/27（土）～28（日）15:00～16:00＞
―当館で育てた繭から糸を紡ぐ体験―
◆ なるせ女剣劇団民家集落公演
＜10/2（日）13:30～15:30雨天時9日＞
―小豆島の農村歌舞伎舞台での大衆演芸公演―
◆ 昔話と紙芝居に親しむ会
＜10/30（日）･11/26（土）10:30～、13:30～＞
―いろり端で昔話と紙芝居を味わう会。各約一時間―
◆ 企画展「山に生きる人々―宮崎県椎葉村の民家と暮らし2―」
＜11/1（火）～12/25（日）＞
期間中の土曜日に連続講座開催予定

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。
（TEL 06－6862－3137）